



主な記事

- 2-3めん 主張、国土交通省副大臣・政務官要求、水源開発問題全国連絡会第16回総会、連合中央女性集會、青年女性部第15回女性委員会
- 4めん 第46回護憲大会、部落開放研究第43回全国集會、他



2009年 第983号 11◆10 [火曜日]

発行所 全日本水道労働組合教宣部
 月刊 (10、25日発行)
 〒113-0033 東京都文京区本郷1-4-1
 ●電話03(3816)4132 ●定価部5円
 (組合員の購読費は組合費を含む)
 http://www.zensuido.or.jp

連合
 春季生活闘争
 中央討論集會

個別労使の論理のみでなく社会的意義もあわせ
 闘争方針の決定にむけ活発な議論

11・5—6



労働者の生活の維持・防衛をはかる取り組みが必要と訴える古賀連合会長

連合は、11月5日(木)から6日(金)にかけて東京・ホテルラングウッドにおいて、「2010春季生活闘争中央討論集會」を開催。中央討論集會には、構成組織の仲間など500人を超えて参加し、「全労働者を対象に春季生活闘争を推進」など「2010春季生活闘争・基本構想」をもとに討議を行った。

集會は、山本副事務局長の「ことよって国民生活の不安開会挨拶・司会進行で始まり、古賀会長は冒頭のあいさつで「日本社会は、かつて経闘争では、日本経済・社会の底割れに歯止めをかけ、社会経済システムの再構築をはかせ、持続的な成長を確保する。」「2010春季生活闘争」の重要性を訴えた。

「2010春季生活闘争中央討論集會」を開催。中央討論集會には、構成組織の仲間など500人を超えて参加し、「全労働者を対象に春季生活闘争を推進」など「2010春季生活闘争・基本構想」の提起を受け、2010春闘を「働く者の闘いの広場」として推進すべく、春闘討論集會をはじめ、取り組みを開始する。

それとともに賃金水準の低下を阻止し、労働者の生活の維持・防衛をはかる取り組みを展開していくことが必要である。個別労使の論理のみでなく社会的な意義にも着目した議論を積み重ね、果敢に取り組みを開始する。

熊野主席工コノミストからは、当面の経済成長率の展望、失業率の上昇、雇用止めの低下を阻止し、労働者の生活維持を強く展開する。取組みを強力に展開する。取組みの柱として①全労働者を対象に春季生活闘争を推進②賃金水準維持の取り組みの徹底③雇用の安定・創出に向けた取り組みの強化④共闘連絡会議の体制強化⑤政策・制度との連携強化、を中心とした「基本構想」を提起したうえで、①春季生活闘争の位置づけ②政策制度の取り組み③闘争の進め方、二日目は、前日の議論を受け全体討論を行い、南雲事務局長のまとめを受け、全日程を終了した。

連合は、本集會の議論を踏まえてさらに討議を重ね、12月3日開催の第56回中央委員会で、闘争方針を決定する予定としている。

第1回中央政策委員会 11・6

水基本法の制定、水政策の前進など 当面の取り組み方針を確認



大会以降の情勢、主な取り組み経過を報告する西川書記長

11月6日、全水道会館で09年度の第1回中央政策委員会が開催された。委員会は、まず、中央政策委員の確認から始められ、水

道政策委員会は、まず、中央政策委員の確認から始められ、水

道政策委員会は、まず、中央政策委員の確認から始められ、水

道政策委員会は、まず、中央政策委員の確認から始められ、水

水音

沖繩米軍基地を巡り、活発な国会論戦が行われている。焦点となっている普天間基地の移設問題では、政府閣僚からは、辺野古の新基地建設、嘉手納基地への統合、県外移設などいくつかの意見が出されている。鳩山首相は「最終決定は私が行う」とのべている。沖繩問題について三党連立政権は政策合意文書の中で、「沖繩県民の負担軽減の観点から、地位協定の改定、米軍再編や在日米軍基地のあり方の見直しを謳っている。いままこ、米軍基地があるために沖繩県民が受けてきた、筆舌につくしがたい苦難の歴史に終止符を打つべき時である」と発言している。約2ヶ月の連立政権、難題は山積している。重要課題への対応に苦慮している状況が伝わってくる。政権への支持率はまだ高いが、政策が具体化してくるにつれ、支持率は変化する。ここで重要なのは、3党による連立の意味ではないか。特に社民党は「憲法を暮らしの中に活かす護憲の党」として、政府の中で存在意義を發揮して行くべきだ。「唯々諾々」と流れに身を任せているだけでは、変化は生まれない。10月30日に総務省が発表した労働力調査によると、完全失業率は5.3%(663万人)であり、有効求人倍率は0.43倍である。注目すべきは、若年層の失業率である。15歳で7.3%と高い。有効求人倍率が低迷している中で、職がない人たちがとって厳しい冬が間近だ。昨年のような「年越し派遣村」を再来させないことも連立政権の課題である。(老)